

わかりやすい

読みやすい

引きやすい

株

式

1000辞典

用

語

中邑

悟 著

本実業出版社



わかりやすい

読みやすい

引きやすい

株式用語

1000辞典

中邑 悟 著

中 邑 悟 (なかむら さとる)

昭和4年京都市生まれ。関西大学専法卒，昭和27年，読売新聞大阪本社入社，編集局政経部記者として証券界，産業界，財界，流通業界などを担当。政経部次長を経て，現在，同本社論説委員。

わかりやすい・
読みやすい・引きやすい

株式用語1000辞典

定価 1200円

昭和58年3月30日 初 版 発 行

著 者 中 邑 悟

発行者 中 村 進

発行所 株式 日本実業出版社
会社

書籍出版部 東京都千代田区三崎町3の5の3 ●101

☎代表03(264)3781 振替 東京 7-25349

本社 大阪市北区西天満6の8の1 ●530

☎代表 06 (362) 6141

印刷所 壮光舎印刷株式会社

製本所 若 林 製 本 工 場

落丁，乱丁本はお取替え致します

©S. Nakamura 1983 Printed in JAPAN

INBN4-534-00835-X C2033 辛1200E

はじめに

株式相場は、相変わらず変動きわまりない動きを続けています。それが、時の経済実態をさらけ出す相場といえるものでしょう。といっても、私が記者生活を通じて見た株式市場は、昭和30年代、40年代、いや50年代も、それほど本質的な面で、変化があったとは思えません。

しかし、最近、少し気になる現象が、はつきりしてきました。それは、個人株主比率の減少です。反面、法人化現象が進んだわけですが、端的にいうと、株式市場から一般投資家が去りつつあることを意味します。証券取引審議会もこの問題にメスを入れ、昭和57年11月に、時価発行改善案を中間報告として大蔵大臣に提出しましたが、資本調達市場である株式市場から個人株主が消えていくことは、重大な問題をはらんでいると思います。

個人株主は、自由主義経済を守る土壌のような存在です。かつて、ピープルス・キャピタリズム（大衆資本主義）といわれた時代がありました。が、証券界、上場企業の経営者の中には、個人株主をいささか軽視している風潮はないでしょうか。上場企業が時価発行で低コストの資金を入手し、技術革新、流通革命などを進めることができた裏には、個人株主の支援も少なからず存在したはずです。個人株主である一般投資家に魅力ある株式市場を育成、強化することは、自由主義経済を守る道に通じると思います。

日本実業出版社から、入門的な株式用語辞典を書いてみないかとご相談があった時、おこがまし

い話ですが、これは、そうしたことに役立つ企画であると判断して、そのことを励みにして、執筆することにしたしました。そこで、執筆の眼目を一般投資家の立場に置き、辞典の辞典が必要でないように、わかりやすい、入門書的な辞典となるよう心掛けました。同時に、昨今の財形時代に応えて新しい情報を盛り込んで、生きた実用書としたつもりです。したがって、ただ机上に積んで置かれるだけでなく、ぜひ通読していただければと思います。これは辞典ではあるが、証券スクールだ、とお感じいただければ、幸いです。そのように、辞典の構成、選語、用語の配列、解説の仕方に工夫し、微力を傾注したつもりです。

なお、辞典の執筆に当たっては、筆者が勤務している読売新聞大阪本社の諸先輩のご理解、同僚のご支援をいただいたことに深く感謝いたします。また、かけ出し記者時代からご教示をいただいた日本証券経済研究所大阪研究所顧問・熊取谷 武先生のご教示、ご叱正がなければ、本辞典が完成しなかったことを申し添えて厚く御礼申し上げます。最後に、広範囲な用語集録に際して、参考にさせていただいた書物を巻末に列記して、感謝の意を表したいと存じます。

昭和58年春

中邑 悟

この辞典の 特色と 使い方

▽株式用語の基本的・必須用語約一、〇〇〇を厳選、収録△

ビジネスマン、学生で株式・証券に興味を持ち、また株式・証券投資を意図されるすべての人にとって、基本的で、かつ必要不可欠な必須用語一、〇〇〇、関連用語を含めれば約一、四〇〇語を厳選、収録。

▽初心者にもよくわかる、わかりやすい用語解説△

株式用語、証券用語は独特で、専門的であるので、頭からむずかしいと決めてかかられる人も多だけに、用語の解説は初心者にもよくわかるように、あくまでもやさしく、またひと通りの知識を持つ人にも十分役立つよう配慮しました。

▽読みやすい事項別、一項目Ⅱ五Ⅱ二三語Ⅱ二頁、読切り式の用語配列△

通常の五十音順の辞典形式を排し、広範多岐な株式・証券用語を事項別に分類・整理して配列。しかも、一項目Ⅱ五Ⅱ二三語Ⅱ二頁、読切り式で配列してありますから、興味のある用語やその関連用語が気軽に、能率的に読めます。また、特

一定の項目で関連的に知っていなければならない、知っておいた方がよい用語が一目瞭然にわかりますから、勉強するうえでも至便です。もちろん、通読すれば、自ずと株式や証券投資に関する体系的、実践的な知識が得られるよう、用語の構成、配列を工夫してあります。また、各章ごとに二頁の解説をつけ、投資のポイント、カンどころなどをわかりやすく説明してあります。

▽引く辞典として重宝な全収容語の索引備付△

索引には見出し語と、その関連用語（文章中に、ゴシック体で表示）を含めた全収容語約一、四〇〇語を五十音順に配列。項目別に見出し語を並べてある目次で、あなたの知りたい用語が見当らなかったときは、念のため、この索引を引いてみて下さい。なお、文中、関連して見て頂きたい用語は、**□**印で明示するか、「前項参照」「前頁参照」などと注記してあります。用語の右肩の“*”印は、別の箇所でも説明されており、索引か目次に収録されている用語であることを示します。

▽用語を通じて、投資の実践法がマスターできます△

この辞典によって、あなたはただ単に株式・証券用語に強くなるだけでなく、今日的な投資の実践法がマスターできるはずです。すなわち、単位株制度、配当、新株発行、株の売買、信用取引、市場用語、投資基準、ケイ線といった事項の用語を

通して読むことで、自然にその内容について全体的な理解が得られます。そのように、用語の構成、配列を工夫してあります。また、戦略用語として投資格言を第八章にまとめて盛り込み、投資の実践に有効に活かしてもらえよう配慮しました。

▽投資信託、転換社債、公社債、新貯蓄商品用語も収録△

現代は、国民の誰もが、株式投資をはじめとして資産づくりにはげむ財形時代です。そこで、この辞典には株式用語のみならず、投資信託、転換社債、公社債、新貯蓄商品などに関する用語も収録、わかりやすく解説しました。また、用語を通して、それらの投資法がマスターできるよう配慮しました。

▽座右の書に——引く辞典、読む辞典として△

辞典は、机上に積んどくものにあらず、日常疑問に思った用語を引いて確かめるのはもちろんのこと、読む辞典としても活用したいものです。この辞典は、事項別一項目二頁、読切り式ですから、どこからでも読み始められます。しかも、全体の殆どが一章―一〇項目（二〇頁）の一〇章建てですから、かりに一日、二項目（四頁）ずつ読み進んだとしても、ほぼ五〇日、二か月足らずで読了です。そのとき、あなたはこの一冊の辞典で“株式スクール”“証券スクール”を目出度く卒業されたことになるはずです。

まえがき

1 株式の基本的な用語



株とは①—株券など	44	。株（株式・株券） 。インカム・ゲイン 。物的証券 。株主名簿・株主 。株主平等の原則 。株主平等の原則 。株主構成 。株主優待制度 。大株主
株とは②—単位株制度など	46	。額面 。単位未満株 。株式分割 。無額面株
株主①—株主権など	48	。名義書き換え① 。株主権 。株主總會・議決権・提案権 。株主優待制度 。株主名簿・株主 。株主平等の原則 。株主構成 。大株主
株主②—個人株主など	50	。株式分布 。法人株主 。株式所有の処理基準 。個人株主 。株式保有制限 。株式の持ち合い 。経営権の譲渡
配当①—円錢表示など	52	。配当 。配当可能限度 。配当制限・配当自由化 。配当率・円錢表示 。中間配当・期末配当 。安定配当 。無配

配当②—配当のいろいろ

54

- 。普通配当
- 。特別配当
- 。株式配当
- 。配当落ち
- 。優先株
- 。後配株
- 。記念配当
- 。現金配当
- 。予想配当
- 。普通株
- 。無議決権株
- 。有配株
- 。株主優遇策

新株発行①—有・無償増資
など

56

- 。増資（新株発行）
- 。無償交付・小刻み無償
- 。並行増資
- 。新株引受け権証書
- 。有償増資
- 。株主割り当て増資
- 。新株引受け権

新株発行②—公募など

58

- 。第三者割り当て
- 。時価発行・額面発行
- 。公募
- 。安定操作
- 。繰故募集
- 。株主優先募入
- 。公募価格・ディスカウント率
- 。公募ラッシュ

新株発行③—時価発行
新ルールなど

60

- 。プレミアム・プレミアム還元
- 。時価発行新ルール
- 。資本金への組み入れ額変更
- 。公募発行限度ワク
- 。時価発行ルール

新株発行④—中間発行など

62

- 。中間発行
- 。抱き合わせ増資
- 。過剰株
- 。新株（子株）・旧株（親株）
- 。権利（新株）落ち
- 。増資減配・食い逃げ増資
- 。失権株
- 。増資調整・増資等調整懇談会
- 。増資採算
- 。権利（新株）付き商い

2 株式の流通に関する用語



証券取引所①—仕組み

66

・流通市場（株式市場）
 ・東証・東証
 ・正会員業者・非会員業者
 ・市場間取引システム
 ・証券取引所
 ・北浜・大証
 ・才取り会員（仲立ち会員）
 ・売買注文一括処理システム
 ・地方取引所

証券取引所②—株式上場

68

・株式公開
 ・上場審査基準
 ・親引け
 ・裏口上場
 ・少数特定者持株数・同株主数
 ・公開株・公開価格
 ・値つけ株
 ・上場銘柄
 ・生まれ値
 ・上場廃止基準

証券取引所③—立ち会い

70

・上場基準経過措置
 ・立ち会い・平日立ち会い・平日立ち会い
 ・指定銘柄・一般銘柄
 ・寄り付き・前引け・大引け
 ・ゲキタク（撃析）売買
 ・出来値
 ・値幅制限（ストップ高・ストップ安）
 ・監視ポスト・整理ポスト
 ・大量売買取引
 ・大発会・大納会
 ・場立ち
 ・前場・後場
 ・ザラバ
 ・笛吹き
 ・板寄せ
 ・呼び値

証券会社①—免許制など

72

・証券取引法（証券法）
 ・証券業の免許制
 ・引受け業務（アンダーライター）
 ・証券取引審議会
 ・委託売買業務（ブローカー）

証券会社②—業務内容など

74

・募集・売出し業務（ディストリビューター）
 ・自己売買業務（ディーラー）
 ・証券アナリスト
 ・総合証券一〇社
 ・兼業業務
 ・四大証券
 ・投資顧問業
 ・地場証券
 ・幹事証券

証券会社③—証券外務員など

76

- ・証券業協会
- ・証券外務員
- ・相場操縦
- ・ノミ行為
- ・経営保全命令（是正保全命令）
- ・証券団体協議会
- ・不正取引の禁止
- ・仮装売買（なれあい売買）
- ・自己売買基準
- ・売買損失準備金
- ・健全性省令

株の売買①—売買の仕方

78

- ・売買の原則（仕方）
- ・指し値・成り行き注文
- ・約定代金
- ・売買単位
- ・計らい注文
- ・売買一任勘定
- ・客注
- ・委託手数料
- ・名義貸し

株の売買②—取引の種類

80

- ・売買取引の種類
- ・特約日決済取引
- ・未決済勘定（未済）
- ・預り資産
- ・普通取引
- ・発行日取引
- ・保護預り（保護預け）
- ・単位未済株の売買
- ・当日決済取引
- ・受け渡し・翌月受け渡し

株の売買③—事故株券など

82

- ・仕切り売買
- ・過当取引
- ・事故株券
- ・仕切り販売
- ・苦情相談室
- ・株券除権判決
- ・推奨販売
- ・振り替え決済制度
- ・名義書き換え①

店頭株

84

- ・店頭市場
- ・店頭登録銘柄・店頭登録扱い銘柄
- ・店頭株の売買
- ・店頭株の取引単位
- ・店頭株の委託手数料
- ・店頭株
- ・店頭配の公表
- ・店頭株の受け渡し
- ・第三市場構想
- ・日本店頭証券
- ・ベンチャー・キャピタル

3 株式の材料、時事、環境用語



市場内部要因①—外人投資
など

88

- 。市場内部要因
- 。投信銘柄
- 。好材料・悪材料
- 。機関投資家
- 。外人投資
- 。分散投資・集中投資

市場内部要因②—需給関係
など

90

- 。株主安定工作
- 。クロス買い
- 。需給相場・需給関係
- 。増資圧迫
- 。法人買い・法人売り
- 。金融クロス
- 。ストック・マインド
- 。配当取り
- 。換金売り
- 。名古屋クロス

市場内部要因③—仕手株など

92

- 。仕手筋・仕手株・仕手戦
- 。関西銘柄
- 。営業姿勢
- 。高株価経営

市場内部要因④—株価規制
など

94

- 。過当投機
- 。株価規制
- 。インサイダー取引
- 。株価対策
- 。ホット・マネー
- 。手張り
- 。自社株
- 。写真相場
- 。市場エネルギー

市場外部要因①—大相場

96

- 。市場外部要因
- 。いざなぎ相場
- 。外人主導相場
- 。神武相場
- 。過剰流動性相場
- 。スタージン暴落
- 。岩戸相場
- 。低金利相場

市場外部要因②——ショック相場

98

- 。ケネディ・ショック
- 。ポンド・ショック
- 。ライシャワー・ショック
- 。ニューヨーク株
- 。SP株価指数
- 。IOSショック
- 。オイル・ショック
- 。グランビル・ショック
- 。ダウ工業株三〇種平均
- 。ロイター商品相場指数
- 。ニクソン・ショック

市場外部要因③——円相場など

100

- 。円相場
- 。政治銘柄
- 。IBM産業スパイ事件
- 。金融政策
- 。社会銘柄
- 。日本ケミファ事件
- 。財政政策

株式相場①——金融相場など

102

- 。株式相場
- 。決算相場
- 。腕力相場
- 。人気相場
- 。金融相場
- 。クロウト相場
- 。大衆相場
- 。業績相場
- 。思惑相場
- 。全員参加型相場

株式相場②——心理相場など

104

- 。熱狂相場
- 。恐怖相場
- 。年末相場
- 。秋相場
- 。心理相場
- 。地相場
- 。大相場
- 。恐慌相場
- 。新春相場
- 。通い相場
- 。催促相場
- 。高原相場
- 。阪(は)行相場
- 。夏相場
- 。努力相場
- 。水準訂正相場

買い占めと従業員持株制度

106

- 。買い占め
- 。肩代り
- 。信義則違反
- 。公開買い付け制(TOB)
- 。従業員持株制度
- 。防戦買い
- 。直取引
- 。特別報告銘柄制度

4 企業分析に関する用語



会社ニュース

110

- ・企業業績
- ・減収減益
- ・増配・据え置き・減配
- ・材料含み株
- ・財務諸表
- ・ディスクロージャー
- ・決算・中間決算
- ・増額修正・減額修正
- ・無配転落・復配
- ・増収増益
- ・会社分析
- ・営業報告書
- ・タイムリー・ディスクロージャー
- ・有価証券報告書
- ・借方・貸方
- ・繰り延べ資産

財務諸表①—バランス・シート

112

- ・貸借対照表（バランス・シート）
- ・総資本
- ・流動資産
- ・負債の部
- ・資産の部
- ・固定資産
- ・流動負債

財務諸表②—バランス・シートと損益計算書

114

- ・固定負債
- ・資本の部
- ・剰余金
- ・金融収支
- ・引当金
- ・法定準備金
- ・損益計算書
- ・無借金経営

財務分析①

116

- ・内部留保
- ・財務比率
- ・資本装備率
- ・流動比率
- ・配当性向
- ・自己資本比率
- ・固定比率
- ・増収率・増益率

財務分析②

118

- ・資本金利益率
- ・総資本利益率
- ・総資本回転率
- ・棚卸資産回転率
- ・負債比率
- ・自己資本利益率
- ・売上高営業利益率
- ・売上高原価率
- ・売上高金利負担率
- ・損益分岐点
- ・連結決算

会計監査

120

- 。会計監査人
- 。監査報告書
- 。粉飾決算
- 。純資産
- 。減資
- 。監査法人
- 。監査証明
- 。タコ配
- 。債務超過
- 。会社更生法
- 。監査意見

業種別ポイント解説①

122

- 。水産株
- 。住宅株
- 。繊維株
- 。建設株
- 。食品株
- 。紙・パルプ株

業種別ポイント解説②

124

- 。化学株
- 。石油株
- 。鉄鋼株
- 。機械株
- 。薬品株
- 。ゴム・ガラス・セメント株
- 。非鉄金属株
- 。通信機株

業種別ポイント解説③

126

- 。重電株
- 。造船株
- 。精密機器株
- 。百貨店・スーパー株
- 。家電株
- 。自動車株
- 。南社株

業種別ポイント解説④

128

- 。銀行株
- 。証券株
- 。陸運株
- 。電力株・ガス株
- 。損保株
- 。不動産株
- 。海運株
- 。レジャー・サービス株

5 信用取引とその市場に関する用語

付・グループ株



信用取引①——仕組み

132

- 。信用取引
- 。証券金融会社
- 。貸借銘柄指定基準
- 。自己融資
- 。信用取引銘柄・貸借銘柄
- 。信用取引期間
- 。貸借取引

信用取引②——委託保証金など

134

- 。委託保証金・委託保証金率
- 。信用取引口座
- 。差金決済
- 。両建て
- 。仮需要
- 。権利処理
- 。代用証券
- 。担保掛け目
- 。カラ買い・カラ売り
- 。保険つなぎ

信用取引③——追い証など

136

- 。融資金利
- 。食い合い
- 。貸借担保金
- 。受取り金利
- 。増し担保
- 。更新差金
- 。貸し株・借り株
- 。追い証
- 。株不足

信用取引④——特別信用制度

138

- 。新信用取引制度
- 。注意基準・注意銘柄
- 。期日売り
- 。特別信用制度
- 。規制基準・規制銘柄
- 。停止基準
- 。ガイド・ライン

信用取引⑤——融資残高

140

- 。融資残（買い残）
- 。差引き融資残高
- 。三市場信用取引残高
- 。取組み
- 。借り株残（売り残）
- 。日証金残高
- 。信用取引銘柄別残高
- 。貸借倍率
- 。カラ売り比率